早期臨床体験実習Ⅱ
（Early Clinical Exposure Ⅱ）

【責任者/担当者】
〔臨床教育統括センター〕 臨床教育統括センター長
〔医 学 教 育 セ ン タ ー〕 蓮池 由起子 医学教育センター長、庄司 拓仁 講師
〔卒 後 研 修 室〕平野 公通 准教授

【担当者】
〔臨床教育統括センター〕 柏 薫里 講師、各担当教員
〔医 学 教 育 セ ン タ ー〕今西 宏安 准教授、各担当教員

【目的】
臨床実習に臨む前に、医療者としての基盤を構築する。医療と社会との関係を把握し、従来の基礎医学や臨床医学の知識だけでなく、医療コミュニケーション、危機管理、チーム医療、患者さんの気持ち、臨床心理学、医療における男女共同参画、臨床研究、研究者倫理、国際保健、アンガーマネージメントなど幅広い角度から医療について考える。

【科目キーワード】
「早期臨床体験（Early Clinical Exposure）」「コミュニケーション（communication）」

【到達目標（アウトカム）】
医学部低学年の学生が実際に医療の現場を見学し、また介護や福祉を体験することにより、医学生としての自覚をもち、医師への動機をつけることを目的とした臨床医学実習のひとつである。低学年で、医学的知識をほとんど持っていない時期に行われる実習であるため、専門的な知識や手技の修得を目的としたものではない。

<u>施設協働実習</u>
- □ 医学部で学ぶ医学が社会でどのように役立っているのかを理解する。
- □ 社会的な弱者の立場を知り、それを助けている人々のひたむきな仕事ぶりに触れる。

<u>診療所実習</u>
- □ 診療所における地域医療の現場を知る。
- □ 卒業生の活躍を見て、自らの将来をイメージする。
- □ 受け入れ施設へ適切な御礼の手紙を書くことができる。

<u>エスコート実習</u>

□ 患者さんに挨拶と自己紹介を適切に行うことができる。
□ 患者さんのお話を傾聴し、適切な相槌をうち、会話ができる。
□ 病院内の配置や動線を理解し、案内ができる。
□ 病院の初診からの診療システムを概説できる。
□ 車椅子を扱うことができる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

・専門職としての社会における立場および役割を説明できる。
・様々な専門分野の協力にもとづく医療の多角的アプローチを理解している。
・院内や地域の連携の重要性を理解している。
・家庭医およびプライマリ・ケア医として必要な総合診療に必要な具体的な知識、および各種の健康指導や医療支援に必要な知識を修得している。兵庫県の保健・医療・福祉・介護および行政に関する知識を修得し、諸問題を議論することができる。
・プライマリケアにおける医師の役割と重要性を理解している。
・模擬的な状況下で文化的・社会的な理解を示し、傾聴できる。
・社会の問題、医療、医療経済に関心を持ち、健康、社会福祉に関する問題を理解している。ボランティア活動を理解し参加する。
・他者からの評価を受け入れ、自己に反映できる。
・人の命と健康および生活の質を守ることを理解し、社会の福祉について理解している。
・兵庫医科大学の歴史と伝統を理解している。
・医師の義務や医療倫理について理解している。
・生と死について考え、患者の権利を説明できる。エンド・オブ・ライフケア、アドバンスド・ケア・プランニングについて理解している。患者のニーズを理解することができる。
・行動科学と臨床医学の関りを理解し、患者と、共感、敬意、思いやりをもって接することができ、学内の様々な人々や団体と積極的に関わることができる。
・地域偏在、診療科偏在の課題を抱える地域の住民との交流を通じて、考え・意見を述べることができる。
・他者の立場を考えて接することができる。
・様々な病気や障がいを持つ患者の気持ちを含めて理解している。
・患者の痛み、苦しみ、悩みを知る。
・自学自習の態度を身につけ、能動的な学修ができる。
・友人を尊重し、互いに教えあう態度を養成できる。
・患者の病の解釈、感情、期待、問題点を列挙し、解決策を考えることができる。
・診察を見学し、内容を理解できる。
・基本的な臨床手技の方法や検査法があることを知っている。
・生活習慣病と疾病予防の重要性を理解している。

・医療現場における様々なリスクを説明できる。
・人体の構造の特性、機能との関連を理解している。

【概要ならびに履修方法】

11～12 月に 6 週間の期間を設け、学生を概ね 2 グループに分ける。そのうち 3 週間は基礎系講座配属、もう 3 週間は施設協働実習、診療所実習、エスコート実習などである。前半後半でグループは交替し、両方の内容を学ぶ。コミュニケーション教育を行う場合がある。2 グループのグループ分けについては、直前に発表する。

オリエンテーション 1 ： 10 月 4 日 エスコート実習
オリエンテーション 2、3 ： 10 月 30 日 基礎配属、施設協働実習、診療所実習
発表会 ： 1 月 9 日～1 月 10 日 施設協働実習、エスコート実習
追再実習期間：対象者には追って指示する

予定は変更することがあるので掲示板などに注意すること。

施設協働実習

実習であるので、本学の講義時間は適用されない。早朝の集合や解散が夜遅い場合もある。また土曜日にも実習が行われる場合もある。

老人保健施設、肢体不自由児施設、精神障害者施設、リハビリテーション施設、福祉施設、児童施設などに 1 週間派遣する。原則として各施設 1 名もしくは 2 名とする。配属先は大学が決定する。施設内では現場のスタッフに 1 名ずつ同行し、お手伝いをしながら現場の仕事を体験する。すなわち、介護や看護の実際、食事介助、排泄介助、入浴介助、なんでも手伝うこと。ただし、対象となる患者さん（入所者）が異性の場合は、遠慮すべき場合もあるので担当頂くスタッフの方に相談するなど配慮すること。状況を考え、立場をわきまえるのも学修の一部である。学生は、この実習が施設側の厚意で実現していることを、決して忘れないこと。遅刻、居眠り、だらしない態度は不合格とする。体調不良の場合は無理しないで休み、実習開始までに連絡し、診断書を提出すること。無理に実習参加してインフルエンザ、感冒、感染性胃腸炎などの感染症を入所者、利用者、患者さん、スタッフに感染させることは犯罪に等しく、不合格に値する。

発表会は全員参加のこと。各自が発表を行う。最初から最後まで参加し、自分の発表以外もすべて真摯な態度で聞き、活発な質問を行うこと。場合によって終了時刻が延長する場合もあるが、早退は認めない。欠席、遅刻、早退は不合格にする場合がある。追再実習の学生も発表会は聴講すること。

止むを得ない事情による欠席は、一度だけ追再実習を行う。追再実習を実施した場合の発表会は追って連絡する。

止むを得ない事情で追再実習になった場合も、全体の正規の発表会にも出席し、情報や体験を共有すること。加えて追再実習の発表会で発表を行うこと。

なお、施設側の都合（インフルエンザ、ウイルス性腸炎などの感染症流行、職員配置の問題など）で実習施設を急遽変更する場合や追再実習期間に実習を行う場合がある。必ず上記追再実習期間も予定を空けておくこと。個人的都合やクラブ活動による欠席は認めない。

診療所実習

同窓会（緑樹会）の協力のもと、兵庫医科大学卒業生の先輩方の診療所で、診療の流れを見学する。

（実習前）

・プロフィールシートの提出

・実習前 Daily Log の Moodle 提出（提出期日は Moodle に記載）

（実習後）

・実習後 Daily Log の Moodle 提出（提出期日は Moodle に記載）

・診療所へのお礼状

※お礼状は指定の用紙、2 枚以上を必須とする。

お世話になった先生に送るので、取り扱いには注意すること。

（雑な書き方や用紙が汚い等、相手が不快に思う内容の場合は書き直しを命じる）

提出期日は Moodle に記載する。また提出の際は、西宮教学課に手渡しすること。（BOX に入れたものは無効とする）

追加で用紙が必要な場合は、西宮教学課まで取りに来ること。

エスコート実習

「基礎系講座配属」、「施設協働実習」の期間で、配属や実習のない時期の指定された 1 日で実習を行う。実習日は集合時間までにケーシー型白衣を着て集合すること。時刻や場所は追って通知する。

◇エスコート実習の当日の具体的手順

・学生 1 名は 1 名の新患患者さんを担当し、外来受付に来られてから病院玄関を出られるまでをエスコートする。この間、学生はできるだけ患者さんと会話をするように心がける。患者さんが心地よく受診できるようにすること。

・当日予約の初診患者さんが外来受付に来られたら、学生自身が本日の受診時間中に付き添わせていただきたいことを説明し、承諾を得る。当日予約の患者さんが不足の場合は、予約なしの新患の方にお願いすることがある。

・受診書類が準備できれば一緒に各診療科に向かうこと。その際には緑のクリアファイル（紹介状、診察券等が入っている）をまず各診療科受付に提出し、受付票（A4 サイズ）をもらう。患者さんは、受付票に記載されている受付番号で呼び出しされる。
・学生は患者さんが診察室に呼ばれるまで側に付き添う。
・診察の順番になったら、学生は患者さんを診察室に案内する。診察室での問診に立ち会ってよいかどうかは学生から患者さんに尋ねる。承諾が得られない場合は、学生は待合で診察の終了を待つ。
・採血、検査、検査申し込み、入院申し込みなどある場合は、学生は患者さんに付き添って院内を案内する。最後に会計に案内し、病院玄関で患者さんに挨拶をして別れる。ただし、付き添いの方が院内の駐車場に車を取りに行く間の患者さんの付き添い、玄関での車への乗り込みの補助などお手伝いできることがあれば、臨機応変に対応すること。
・患者さんに求められても、連絡先など個人情報は渡さないこと。
・午後 5 時になったら、実習が終了である旨を学生から患者さんに伝える。
・別れ際にアンケート用紙と返信用封筒を渡し、患者さんに評価を依頼する。
・何か問題が発生した場合、受付などで電話を借りて西宮教学課に連絡すること。
・院外処方の場合、院外薬局への同行はしなくてよい。

①各科外来の下見・・・各科外来の構造、中央採血室、エックス線検査、心電図、超音波検査室、入院センター、会計、処方等を理解する。原則としてオリエンテーション講義の前日夕方までに外来を訪れ、診察室の配置、採血検査、エックス線検査の場所などを下見しておくこと。事前に院内ツアーならびにテストを行い、テストに合格しない学生は参加させない。すなわち不合格となる。
②車椅子実習・・・当日、車椅子の患者さんの担当になったときのために、車椅子の使用方法や介助法などを学ぶ実習がある。
③傾聴トレーニング・・・実習に出る前に基本的なコミュニケーションを身につけるため、コミュニケーション教育を行う。
④指定の時刻を守らず遅刻したり、健康診断や予防接種を期日までに受診していなかったり等の場合は、実習に参加できない。時間やルールを厳守することは医療者にとって最低限のことである。その教育的効果を鑑みて厳格に評価する。
⑤実習当日の準備物品：筆記用具、大学指定のケーシー型白衣（汚れ、しわのないもの）、白い靴、写真付き学生証（タッグクリップ）、学生証の再発行には 1 週間程度は必要である。間に合わない場合は自己責任であり、実習参加は認めない。
オリエンテーション、直前ガイダンス、発表会の注意事項は施設協働実習と同じ。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

ガイダンスをよく理解すること。時間は指定しない。

【成績の評価方法・基準】

いずれも医療スタッフや患者さんの評価および提出物（期限を守ったかどうかも含め）、発表会（質疑応答を含む。エスコート実習以外）への評価で 100%とするが、さらに態度評価（遅刻欠席を含む）を加味して総合的に判定する。特に医療スタッフの評価や態度評価は重視する。

3つの実習すべて合格した場合に本科目は合格となり、1つでも不合格であれば科目として不合格となる。

【学生への助言】

施設協働実習においては、お世話になる施設は教育機関ではない。良い医療者を育てるためにボランティアで教育を引き受けて頂いている。積極性のない者は邪魔なだけである。積極性がなければ、1 週間壁際に立ち続けることになって不合格の評価を下されるものと承知しておくこと。

学生気分ではなく施設職員になったつもりで勤勉に働き、奉仕すること。患者さん（入所者）には学生かどうか区別がつかない。身だしなみ、挨拶、さわやかな態度を心がけること。医学部は社会に開かれた学部であり、単なる学生－教員の関係のみで成り立っているのではないことを自覚すること。

医師の視点からの実習ではなく、医師という鎧を着る前の柔軟な視点から観察し、感じ、考えるのが目的である。血圧測定など医師の真似事は目的でない。

さらに以下の点に留意すること。

- 健康診断を受診し感染症などの異常のないこと、健康調査票も提出のこと。
- 4 種予防接種（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘）ならびにインフルエンザ予防接種済みであること。本学での接種あるいは接種証明書提出（外部医療機関で接種の場合）がない場合は本実習参加不可とする。体質的に接種できない場合など止むを得ない事情がある場合は診断書を持って保健室に相談すること。
- 新型コロナウイルスの予防接種に関しては状況が流動的であり、別途通達する。
- 施設内では立場をわきまえること。（自分より下位の者はいない）
- 実習当日体調不良の場合は無理をしないこと。
- 複数で同一施設に行く場合は、お互いに注意しあって医学生として恥ずかしくない自己規制を発揮すること。態度不良学生のみならず、一緒に再実習、懲戒の対象になると心得るように。連帯責任である。
- 玄関や廊下を含め全てが勤務する場所である。担当者や教員のいない場所でも緊張感を保つこと。
- 集合時間の 15 分前には所定の服装に着替えて集合場所に到着し、静かに待つことが、医療を学ぶ者の心得である。

・施設協働実習および診療所実習では行き帰りとも必ず公共の乗り物を使用すること。（車・バイク・自転車不可）体調不良など、やむなく欠席する場合は、実習開始前に実習先と西宮教学課に必ず電話連絡すること。

【フィードバック方針】

エスコート実習では患者さんからのアンケートをチェックしたのち学生に返却する。

【オフィスアワー】

講義ではないので設定しない。

【受講のルール、注意事項、その他】

本科目は医師となる資質を涵養し、その成長を評価するための科目である（Fitness to Practice）。この科目外であっても医学生に相応しくない行動、態度があると思われた場合は、教務委員会等における審議を経て、受講不可もしくは不合格とする場合がある。

身だしなみについて

学生は、患者さんを診察するのに相応しい服装、髪型、履物を身につける。判断の基準は、患者さんの立場にたって、不審、不快でないと思われること。不適切な学生は参加させない。

〈白衣（ケーシー）、名札〉

・こまめに洗濯し、交換すること。しわ、汚れやしみのあるもの、破れたものは着用しない。
・ずり落ちたズボンなどサイズの合わないものは着用しない。裾上げ等を必ず事前に行う。
・半袖ケーシーの襟や袖からアンダーシャツ、長袖を出さない。厚手の下着等で調節する。
・肌、下着、Tシャツ等の柄などが白衣やケーシーから透けてはならない。
・名札は必ず着用し、胸の位置につける。首からかけるタイプは不可。

〈履物〉

・白色の運動靴、上履きを着用（サンダル、スリッパ、下駄、合成樹脂性の履物は不可）。
・靴下は必ず着用し、白色を原則とする。くるぶしが十分隠れるものを着用すること。

〈頭髪〉

・感染予防の観点から白衣に付着させない。
・寝癖や乱れを整える。
・茶髪の染髪、染髪を隠す黒彩は不可。
・女子で白衣にかかる場合は髪をまとめ、ポニーテールではなくお団子にすること。まとまりにくい場合はヘアピンやネット等を使用し、髪が飛び出さないようにする。

・男子は髪が襟にかからないこと。（後ろでまとめるのは禁止）
・男女とも長い前髪は不可。

〈その他禁止事項〉
・ペインティングした爪
・アクセサリー、過度の化粧や香水
・カラーコンタクト
・刺青、タトゥー
・すべての種類のひげ、長いもみあげ
・喫煙
・白衣での外出など

〈マスクについて〉
・白色で一定の性能を有するマスク（不織布製）を着用すること。

行き先の確認とメモ、必要物のチェック

実習の行き先を前日までに確認する。交通の便、要する時間を下調べする。交通混雑で意外に時間がかかる場合があるので充分注意をすること。連絡先の電話番号などは複数のメモを残し紛失に備える。白衣・上履き・着替えの持参が必要な施設もあり、案内を熟読すること。

遅刻と無断欠席は厳禁

忙しい日常業務の中から時間を割いて早期臨床体験実習Ⅱに協力して頂いている。遅刻と無断欠席は、失礼であるのみならず職場集団の規律を乱す原因となる。
職場では厳しい労働規律が求められており、大変嫌がられる。遅刻に言い訳は無用である。電車の延着は理由にならない。電車の多少の遅れを見込んで予定を立てること。万一、やむを得ない理由で遅刻と欠席の場合には、所定の時刻の前に電話連絡すること。

名札

名札として、写真付き学生証を忘れないこと。学生証の再発行には 1 週間程度は必要である。間に合わない場合は自己責任であり、実習参加は認めない。

挨拶

訪問の時には、自分の所属・氏名、来訪の目的を告げること。そして、大きな声で「こんにちは」「おはようございます」、作業が始まる前には「よろしくお願いします」終われば「ありがとうございました」帰る時には「失礼します」「お世話になりました」、こんな簡単な言葉を発するだけで、雰囲気がとても良い状態に保てる。

自分の判断ですべき事と、判断・指示をもらってすべき事の区別を

現場の職員は、自分の権限内の事は自分で判断して仕事をし、それを超えることは上司の判断・指示をもらって仕事をする。自分の権限内か外かの判断は、時には非常に難しく、その人の能力の根幹を成すものである。早期臨床体験実習Ⅱで訪れた医学生として自分の判断でしてよい事と指示をもらうべきことの区別は、常に考えること。

仕事場のマナーを学ぶ

学校の成績とは別に、社会では多面的な評価がなされる。

マナーの善し悪しは、人間個人の評価の中心をなすもので、マナーの悪い人間は、職場の人間関係から排除される。どんなに勉強ができてもマナーの悪さを直接注意してくれる程に親切な人は、実社会にはいない。

具体的には、仕事中に雑談をしない。すべき作業がない時でも静かに待機している。いつもキビキビとする。長椅子に寝そべる、大便座り、ポケットに手を突っ込むことは禁止。

勤労意欲のない人間は、とても嫌がられると肝に銘ぜよ。

適切な服装に留意する、適切な身だしなみに努める

適切かどうかの判断は、自分の判断ではなく世間一般の人の判断である。

謙虚な態度を心がける

自分の身の回りを見渡して「むかつく」人がいるということは、実は、自分自身も他人から「むかつく」と思われている可能性があることを理解すること。何事にも謙虚に。借りたものは、必ず返す。報告すべきことは、必ず報告する。人の悪口を言わない、批判しない。

職場で知ったことを口外しない

実習現場で患者さんや入所者のプライバシーを知る機会があるが、決して口外しないこと。友人同士の会話に注意。食堂、エレベーター、駅などの外部はもちろん、学内でも安易に会話の話題としないこと。SNS などへの発信はもちろん厳禁で、不合格だけでなく懲戒処分の対象となる。

後片付けとゴミの処理

後片付けまで、しっかり作業をする。

自分が作ったゴミは、自分で持って帰ること。特に昼食の容器、ペットボトルに注意。

ちょっとした心掛け

実習中に人の前を通るとき「前を失礼します」と一声かけてから、前を横切る。後ろを通る時は「後ろ、失礼します」の一声が大事である。これは人のことを気遣う心の表れであり、職場で好かれて実習で成果を挙げる秘訣である。

学ぶべきものとは

早期臨床体験実習Ⅱの終了後にもし感ずるところ、学ぶべきことが無かったと思うなら、心の成長に何か大きなものが欠けていたと言わざるを得ない。我々大学人は、最高の学問を目指して限界まで日々挑戦しているが、もう一方で、大学のまわりの地域の人たちへ有益なものを還元することも重要なのである。この事を忘れないこと。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行状況によってはオンラインで運営することがあり、その場合は追って通知する。新型コロナウイルスの予防接種については、追って指示するのでそれに従うこと。遵守できない場合は実習に参加できない。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【連絡先】

施設協働実習、診療所実習、エスコート実習

教育研究棟 2 階　西宮教学課